

Wiegenlied 子守歌

訳詞者 中山知子 (1926 - 2008)。現在の東京都生まれ。1947年日本女子大学卒。川端康成に師事。児童文学の創作、海外作品の紹介に努める。著書、訳書、作詞多数。

作曲者 ブラームス (Johannes Brahms, 1833 - 97)。コントラバス奏者の長男として、ドイツのハンブルクに生まれる。6歳の時、父からヴァイオリンの手ほどきを受け、音楽の道に進んだ。1853年、20歳の秋にシューマンを訪ねて認められ、作曲家として世に出る道が開かれた。

54年2月のシューマンの投身自殺未遂と入院後は、シューマン夫人のクララと友情を深めてゆくが、彼は一生独身で終わる。

楽曲解説

「子守歌」は、5つの歌からなる作品49 (1864年から68年にかけて作曲) の第4曲で、ブラームス自身が指揮する合唱団の女性ベルタ・ファーバーの第2子誕生の祝いに作曲した。彼女がウィーン風のワルツを好んで、巧みに歌ったことから3拍子で作曲されている。

形式はA (ab) - B (cc') の2部形式である。

原語歌詞はドイツの詩人アルニム (Achim von Arnim, 1781 - 1831) とブレンターノ (Clemens Brentano, 1778 - 1842) 編の『少年の魔法の角笛 (Des Knaben Wunderhorn)』(ドイツの古い民謡やそれに類する素朴な歌が口承あるいは古書から収集されている) からとられている。後にシェラー (Georg Scherer) の詩が第2節に加えられた。

取り扱い上の要点

- 子守歌であるから終始柔らかい発声で歌う。
- オクターヴの跳躍は、ポルタメントをつけないように発声に注意し美しく歌う。
- 高音の2分音符は、初めから声を張らずに弱く歌い、その後少しふくらませると表情が出る。
- 柔らかく、ゆったりとした3拍子のリズムのり、美しく歌う。

移調譜 (二長調) …別冊p.21

Ich liebe dich 愛

作詞者 ヘロゼー (Karl Friedrich Wilhelm Herrosee, 1754/53 - 1821)。ベルリン生まれの牧師、のちに教区監督。

訳詞者 藤田圭雄 (1905 - 99)。現在の東京都生まれ。早稲田大学独文科卒。児童文学者、評論家。『日本童謡史』『ぼくは海賊』など著書多数。

作曲者 ベートーヴェン (Ludwig van Beethoven, 1770 - 1827)。ドイツ、ボン生まれ。ベートーヴェンは、古典音楽の最高を極めるとともに、ロマン派音楽への架け橋となるような作品をつくった。歌曲にも優れた作品がある。

楽曲解説

作曲は1795年ごろではないかといわれ、1803年に出版された。ベートーヴェンの歌曲の中では最も通俗的になっているもので、極めて単純な旋律にやさしい抒情をたたえている。5節から成る原詩のうち第2節と第3節の後半が作曲に用いられた。ベートーヴェンが題を記さなかったために第2節の冒頭の“*Ich liebe dich* (私はあなたを愛する)”がこの曲の題名として使われるようになったが、原詩の題は第1節にある“*Zartlich Liebe* (優しき愛)”であり、この題名で呼ばれることもある。

- あしたに…朝に。

[原語歌詞の大意] おまえが私を愛しているのと同じように私もおまえを愛し、朝に夕に、悲しみを分かちあわない日はなかった。おまえは私の憂いを慰め、私はおまえの嘆きに涙して、たがいに悲しみがしのぎやすかった。私の命であるおまえに神の祝福があるように。また神が私たちをお守りくださるように。(大木正興・訳)

取り扱い上の要点

- 曲全体のもつ素朴さの中にあるしみじみとした愛情を感じ取って、すっきりと歌う。
- 「この世のあらしに」の部分は力強く、そしてテヌート気味に歌うとよい。

原語歌詞の発音、逐語訳、対訳…本書p.72

伴奏譜…別冊p.36 移調譜 (ト長調) …別冊p.38